



国民の森林・国有林

低コストモデル実証団地成果発表会を開催 新たな試験課題へ

3月17日、持続可能な林業を確立するうえで不可欠となっている造林コストの低減等を目的として、平成29年度に熊本南部森林管理署管内西浦国有林21林班に試験地(11ゾーン、15試験課題)を設定し、今回、当初試験研究期間の5年目(平成29年度〜令和3年度)を迎えたことから、これまでの試験研究をとりまとめた成果発表会を九州森林管理局大会議室において開催しました。コロナ禍でもあり、会場参加とWEB参加のハイブリッド方式により全国から60回線を含む約100名以上の参加となりました。

続いて第2部の基調講演では、林野庁国有林野部業務課 長崎屋圭太業務課長、(一社)日本森林技術協会九州事務所主任研究員 中村松三氏より講演をしていただきました。

第3部のパネルディスカッションでは、パネリストとして長崎屋圭太業務課長、宮崎大学農学部教授 伊藤哲氏、森林総合研究所九

州支所主任研究員 八木貴信氏、下刈りの機械化に取り組んでおられる久大林産(株)代表取締役 工藤洋一氏、会社理念でもある「よきひとづくり」を大切にしておられるコムラ樹苗(株)代表取締役 小村哲典氏、中村松三氏を「今後の再造林について」と題して議論してい

ただきました。これまで取り組んできた低コスト造林の試験研究の成果を実際に反映することが必要であり、国有林で下刈りの省力化を実現し民有林へ普及することが重要であるとの意見ができました。

今後、低コストモデル実証団地は次期の試験目標を設定し、引き続き実証試験を継続していくこととしており、今回発表した研究成果については、九州森林管理局のホームページに掲載することとしています。

発表課題等については、次のとおりです。

会は、第1部「低コストモデル実証団地成果発表」、第2部「基調講演」、第3部「パネルディスカッション」の3部に分かれて進行し、第1部の「低コストモデル実証団地成果発表」においては、森林総合研究所九州支所、森林総合研究所林木育種センター九州育種場、宮崎大学農学部、九州森林管理局(森林整備課、技術普及課、森林技術・支援センター)、熊本南部森林管理署が成果の発表を行いました。



低コストモデル実証団地ゾーン配置図

局長交代

小島局長は退職、後任に国立研究開発法人森林研究・整備機構の矢野理事

3月31日付けで小島孝文局長が退職し、後任には4月1日付けで国立研究開発法人森林研究・整備機構の矢野彰宏理事が就任しました。

【新局長の経歴は次のとおりです】
(東京都出身：57歳)



やの あきひろ
矢野 彰宏

昭和62年4月	農林水産省林野庁入庁
平成22年9月	林野庁 森林整備部 計画課 施工企画調整室長
平成24年4月	九州森林管理局 計画部長
平成25年4月	九州森林管理局 森林整備部長
平成27年4月	林野庁 国有林野部 業務課 技術開発調査官
平成29年7月	林野庁 森林整備部 整備課長
平成31年4月	国立研究開発法人森林研究・整備機構 審議役
令和 2年4月	国立研究開発法人森林研究・整備機構 理事
令和 4年4月	現職



発表会場の様子



WEB方式による成果発表会

○発表課題一覧（発表者）

【Aゾーン】

① 獣害対策比較ゾーン（Aゾーンの成長比較とシカ食害率調査（森林技術・支援センター）

② ツリーシエルトを撤去した

際の倒伏の調査状況及び結果（森林技術・支援センター）

③ スギコンテナ中苗のプランティングショックと下刈り省略（宮崎大学農学部教授 伊藤哲）

【Bゾーン】

④ 苗種別苗木の成長比較及び現地適応試験（森林技術・支援センター）

【Cゾーン】

⑤ 下刈り省力化方法の違いが植栽木、競合植生、下刈り工程に及ぼす影響の比較試験（森林総研九州支所主任研究員 八木貴信）

州支所主任研究員 八木貴信

【C・Hゾーン】

⑥ シカネット破損等のドローンによる点検結果（森林技術・支援センター）

【Dゾーン】

⑦ 低密度植栽ゾーンにおける成長調査等について（熊本南部森林管理署）

【Eゾーン】

⑧ スギコンテナ中苗の無下刈り試験（宮崎大学農学部教授 伊藤哲）

【Fゾーン】

⑨ 下刈作業の省力化とシカ被害軽減を目的とした高下刈の検討（森林総研九州支所主任研究員 野宮治人）

【Gゾーン】

⑩ 郷土樹種の天然更新活用による人工林皆伐地の森林再生試験（森林総研九州支所主任研究員 八木貴信）

【Hゾーン】

⑪ 早生樹（センダン等）植栽試験（九州森林管理局 技術普及課）

⑫ さし木コウヨウザンの植栽初期における生育状況の系統比較（林木育種センター九州育種場育種技術専門役 大塚次郎）

【Iゾーン】

⑬ ペーパーポットを用いたスギ挿し苗木の性能評価（宮崎大学農学部教授 伊藤哲）

【Jゾーン】

⑭ スギ第二世代精英樹、及び候補木クロロンの初期成長について（林木育種センター九州育種場育種課長 久保田正裕）

【Kゾーン】

⑮ ツリーシエルトと中苗、下刈りとの組合せ効果試験（森林総研九州支所主任研究員 八木貴信）

○基調講演

・ 林野庁国有林野部業務課長 長崎屋圭太

「いろいろな悩んできたけれど、再造林をめぐる諸課題の解決に向けて」

・ （一社）日本森林技術協会九州事務所 主任研究員 中村松三
「低コスト再造林技術の最近の動向」

（担当Ⅱ技術普及課）

「山の日」記念 第17回森林のアートギャラリー

森林の多面的な役割や私たちの生活との関わりなどについて自由に表現した「森林のアートギャラリー」を九州森林管理局と（一財）日本森林林業振興会熊本支部との共催により実施しました。

地球温暖化などの様々な環境問題に注目が集まる中、今年度のテーマ「みどりの恩恵」を基に、熊本市内の中学生に森林の役割や重要性を絵で表現していただきました。

11校から21作品の応募があり、熊本市教育センターのご協力のもと最優秀賞1点、優秀賞5点を選考しました。

3月6日には表彰式を実施し、制作にあたった各校の代表、教諭及び関係者の計18名が出席しました。それぞれの作品に対する「思い」を発表していただき、終了後には各作品の前で写真撮影を行いました。

また、3月24日には小島孝文九州森林管理局長が最優秀賞を受賞した熊本市立京陵中学校を訪問し、約480名の在校生の前で表彰状の授与及び森林の役割やSDGs等について挨拶を行いました。



表彰式に参列した皆さん

今回受賞した作品は、最優秀賞作品を九州森林管理局正門、優秀賞作品を東側フェンスに設置しています。

展示されている作品は道行く人たちの心を癒し、地域の方々からも好評を得ています。自然や森林について考えてもらうことを期待し、今後2年間展示します。

なお、今回の受賞作品は次のとおりです。

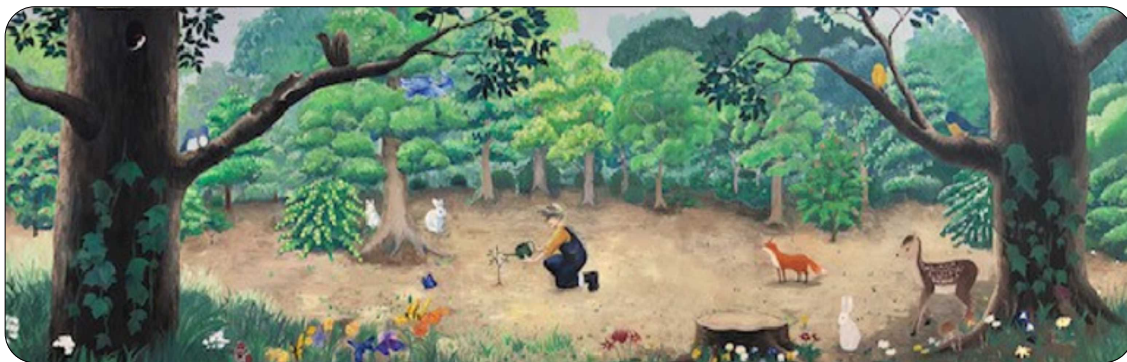
（担当Ⅱ技術普及課）



最優秀賞
「森からつながる世界」
熊本市立京陵中学校 美術部2年生



優秀賞
「生命の輝き」
熊本市立西田中学校 美術同好会1年生



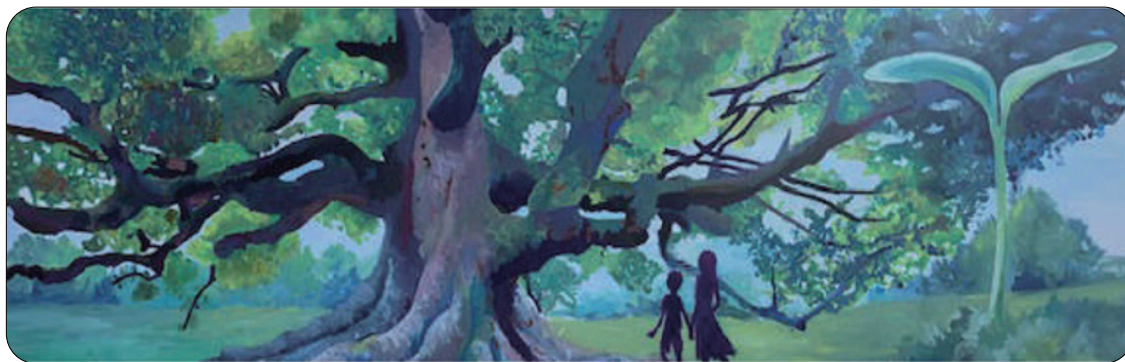
優秀賞
「おじいさんと森のさす光」
熊本市立三和中学校 美術部2年生



優秀賞
「憧れ」
熊本市立清水中学校 美術部1・2年生



優秀賞
「自由」
熊本市立北部中学校 美術部2年生



挨拶する小島局長

各委員からの主な意見は次のとおりです。

○ 昨年度、国内針葉樹合板の生産量は312万7千m³に対して出荷量は315万m³ということで在庫量が少なくなっており、これにはいくつかの要因があり、国内の合板の一番の生産拠点である東北地方が例年以上の寒さで乾燥効率があがらなかつたこと、豪雪により出材が減少して国産材の取り合いとなり原材料が不足しているという状態。

また、ロシア情勢については合板業界では重要な問題があり、九州を除いた地域では合板にロシア単板を使っているが年内は輸出禁



代表生徒へ賞状の授与

3月18日に、本年度第4回目の「国有林材供給調整検討委員会」を開きました。

それぞれの専門分野からの意見を述べあい、「現時点での新たな供給調整の必要はないが、民有林の出材状況、原木価格の動向、工場等の原木仕入れ状況などを注視しつつ需給バランスを見極めながら、計画的な供給に努めるべきである。」との検討結果となりました。

令和3年度第4回国有林材供給調整検討委員会を開催

止といつことである。

このような状況を踏まえ、国有林材の供給というのはこのまま維持していただいで適時増量していただきたいと思っております。

○ 現状の市況はまだ高い水準にあるということで今後の価格については注視していきたいと思っておりますが、現状でいくとまだこのまま続いていくと感じている。

輸出材については中国での春節、北京オリンピック以降の動きを注



局関係者の皆さん



冒頭に挨拶される小島局長

視していたが中国国内の在庫は他国からの輸入なども含め多いというような話も聞いている。3月以降の動向は未だわからないが、燃料の高騰により船賃の値上げも予想されるので、輸出については厳しくなってくるのではとの見通しではあるが現状はまだ引き合いがある。

素材生産関係については、奥山化に対応できる架線系での搬出の技術の向上や機械化なども推進していく必要があるとは考えているので、それらについても国有林にご教授願いたいと考えている。

○ 昨年のウッドショックから、民有林でも伐採希望者が増えており、素材生産量としては非常に増えていると体感している。



WEB方式により開催

素材生産の状況では、各地で同じ状況であると思うが深刻な作業班不足ということで、計画的な自社山生産ができていないという現状にあるようで、やはり川上の環境改善に早急に着手しなければならぬと思っているところである。供給調整は、現在の取り組みを継続していただいて基本的には調整の必要はないと考えている。

○ ストックヤードに貯めているものを、需要に応じて採材していくなどしながら安定的な納材を可能にしていくという取組をやっていく生産業者も増えてきている。このような取組のおかげで昨年からのウッドショックにより行政も

含めて総力で出材していったおかげで九州では材が足りないというようなことはなかった。

これからはSDGsということ、山を伐つたら半世紀くらいかけて再造林していかなければならない。材価を安定させて再造林にかかるコストというものを山側からきちんと発信していき、適正な価格や安定的な供給というものを確立していくべきである。

国有林においては、今後も安定的な供給をお願いしたい。

○ 県内の市場の入荷状況については、例年より価格が少し高いことから非常に多く集まっており市場の選別作業もフル稼働という状況である。3月に入って町有林材、私有林材、公社材の入荷も年度末駆け込みで増えてきており、売れ行きとしても柱材、中目材を中心に非常に好調であり、毎回市場ごとに全落しているというような状況。

ウッドショック時のスキの平均単価が1万7千円ほどだったがこの3月では1万2千円ほどになってきている。再造林や山主様への還元ということを考えれば、もう少し値 段があがってもらえばいいのではと思っているところ。

国有林材の供給という点ではロシア情勢も影響が出てくると思うが相場に注目してもらいながら供給に取り組んでいただきたい。

※本検討委員会の詳細は、九州

一方、製品についてはロシア情勢前ではウッドショックの余波がいつまで続くのかというのが焦点であったが、ロシア情勢を受けて製品としては上向きになるのではと感じている。

国有林材の供給としては、代替需要をいかにつかむかということ、国産材の存在意義というものは非常に大きいので、前倒しということを考えてでもできるだけ多くの出材をお願いしたい。

○ 宮崎県内市場の出荷状況は目立った増加こそ無いものの安定した状況で、相場としては高値横ばいで推移しており、輸出向けのC材については2月頃から徐々に上がりつつあるという状況。

今後ロシア材含め輸入材という

のは国内に入りにくくなってきて予想され、国産材としては追い風になってくると思われる。代替というのではなくしっかりと国産材へ切り替えていただくチャンスと我々は考えており、国産材の信用を取り戻すよききっかけであるので、タイト感が出る前に国有林からの供給を旺盛にお願いしたい。

○ 丸太の輸出では、問い合わせが通常であれば2ヶ月に1回、1社より問い合わせという状況であったものが、今年は2月に4社、3月に入ってからも新規で4社の輸出の問い合わせが入っている。基本的には中国向けであるが、その中にはやはりロシアに起因するロシア材不足による、日本のスキの代替需要もある。

国有林においては、今後も安定的な供給をお願いしたい。

○ 県内の市場の入荷状況については、例年より価格が少し高いことから非常に多く集まっており市場の選別作業もフル稼働という状況である。3月に入って町有林材、私有林材、公社材の入荷も年度末駆け込みで増えてきており、売れ行きとしても柱材、中目材を中心に非常に好調であり、毎回市場ごとに全落しているというような状況。



(担当：地域木材情報分析官)

森林管理局HPのキーワードの木材の供給情報の「九州森林管理局国有林材供給調整検討委員会の検討結果等について」からご覧になります。

森林研究・整備機構理事】
地域木材情報分析官
猪島 明久【大分署長】
熊本森林管理署長
井上 智晴【地域木材情報分析官】

☆3月31日付退職

小島 孝文【九州森林管理局長】
有園 敏行【保全課長】
山本 文雄【大隅署長】
高倉 博文【治山課（鳥栖治山事業所）】
山本 貴二【熊本南部署】
長口 棟博【熊本南部署】
梶丸 正幸【宮崎署】
由谷 浩一【鹿児島署】
西村 知樹【鹿児島署】
丸橋 宗寿【沖縄署】

北薩森林管理署長
佐藤 敏郎【資源活用課長】
大隅森林管理署長
神崎 弘治【林野庁林政部経営課課長補佐（特用林産指導班班長）】
保全課長
廣田 忠善【計画保全部企画官（財産管理担当）】
治山課長
林 友和【屋久島森林生態系保全センター所長】
資源活用課長
高木 周一【森林整備部企画官（供給戦略担当）】

☆3月31日付異動（退職）

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター九州育種場連絡調整課長
小原 豊治【宮崎北部署次長】
近畿中国森林管理局京都大阪森林管理事務所
伴 遼太郎【北薩署】

技術普及課長
奥村 克【計画保全部自然遺産保全調整官】
総務企画部専門官（契約適正化担当）
酒井 昭則【経理課課長補佐】
総務企画部専門官（契約適正化担当）
篠村 和希【長崎署次長】

☆4月1日付異動

九州森林管理局長
矢野 彰宏【国立研究開発法人

総務企画部企画調整課課長兼官
溝越 啓二【総務企画部専門官（契約適正化担当）】

計画保全部流域管理指導官
 三吉 康治【保全課課長補佐】
 石原 健司郎【屋久島署次長】
 熊本森林管理署次長
 計画保全部林地保全企画官
 中村 雄二【計画課課長補佐】
 興柏 美喜夫【計画課森林施業
 調整官】
 飯屋 明【沖繩署】
 鹿兒島森林管理署次長
 野邊 忠司【国立研究開発法人
 森林研究・整備機構森林総合研究
 所林木育種センター九州育種場連
 絡調整課長】
 大隅森林管理署次長
 佐 村上 國男【企画調整課課長補
 佐】
 計画保全部自然遺産保全調整官
 金津 圭介【資源活用課課長補
 佐】
 松永 眞弥【計画保全部流域管
 理指導官】
 屋久島森林管理署次長
 倉本 雅則【屋久島署】
 沖繩森林管理署次長
 沖繩森林管理署次長
 鎌水 隆憲【総務課課長補佐
 (総務担当)】
 環境省九州地方環境事務所国立公
 園課自然保護官
 井上 欣勇【大分西部署】
 治山課災害対策専門官(芦北治山
 事業所駐在)
 松永 和久【治山課設計指導官】
 林野庁森林整備部治山課課長補佐
 (災害調整班担当)
 後藤 寿也【大隅署】
 坂之上 勘太【森林技術総合研
 修所教務指導官】
 林野庁森林整備部研究指導課防除
 技術専門官
 森野 潤【鹿兒島署】
 林野庁国有林野部業務課測定専門
 官
 桑原 英隆【森林整備部企画官
 (長期安定供給担当)】
 津川 敏之【福岡署】
 森林整備部企画官(供給戦略担当)
 林野庁林政部長補佐
 角田 みなみ【沖繩署】
 志賀 栄一【熊本署次長】
 林野庁林政部長補佐
 林野庁林政部長補佐(総務担当)
 小糸 照雄【宮崎署】
 屋久島森林生態系保全センター所
 長
 山部 裕一【総務企画部専門官
 (契約適正化担当)】
 総務課課長補佐(福利厚生担当)
 小糸 照雄【宮崎署】
 白濱 正明【技術普及課長】
 峰 俊之【総務課】
 長崎森林管理署次長
 総務課人事係長

草野 真一【経理課】
 総務課共済組合係長
 秋吉 勇二【経理課】
 総務課給与係長
 清田 誠【総務課】
 企画調整課課長補佐
 相村 英範【林野庁林政部長政
 課監査官】
 企画調整課林政推進係長
 大木 博幸【林野庁国有林野部
 管理課調整班調整第2係】
 経理課課長補佐
 深田 隼人【宮崎北部署】
 経理課経理第一係長
 江藤 香織【熊本署】
 経理課経理第二係長
 坂田 恵【熊本南部署】
 計画課計画調整官
 小園 英行【熊本署】
 計画課課長補佐
 松下 俊二【計画課】
 計画課森林施業調整官
 山本 克郎【屋久島署】
 計画保全部
 田中 凌太【宮崎署】
 計画保全部
 増田 千恵【林野庁国有林野部
 経営企画課】
 保全課課長補佐
 金田 伸也【福岡署】
 治山課設計指導官
 歌野 邦美【熊本署】
 治山課設計指導官(鳥栖治山事業
 所駐在)
 高森 好文【長崎署】
 治山課治山技術官(鳥栖治山事業
 所)

測上 翔吾【長崎署】
 治山課調整指導係長
 中村 健一【治山課(芦北治山
 事務所)】
 治山課民有林治山係長
 立山 計司【林野庁森林整備部
 治山課企画班企画係】
 治山課企画係長
 真井 正【屋久島森林生態系保
 全センター(森林整備課)】
 資源活用課課長補佐
 草野 正揮【西都児湯署】
 資源活用課素材供給係長
 岩下 清美【都城支署】
 技術普及課企画官(民有林連携担
 当)
 永山 博美【西表森林生態系保
 全センター】
 森林整備部
 坂田 晃一【総務企画部】
 屋久島森林生態系保全センター専
 門官(森林整備課)
 笹原 秀司【鹿兒島署】
 屋久島森林生態系保全センター専
 門官(保全課)
 高木 一将【都城支署】
 屋久島森林生態系保全センター
 川畑 一步【鹿兒島署】
 生態系管理指導官(西表森林生態
 系保全センター)
 一口 竜也【長崎署】
 森林技術・支援センター森林技術
 普及専門官
 岩下 正斉【宮崎北部署】
 森林技術・支援センター企画係長
 井 誠喜【宮崎南部署】
 福岡署総括事務管理官

木村 嘉彦【総務課】
 福岡署総括森林整備官
 大塚 磨【大分西部署】
 福岡署主任森林整備官(経営・資
 源活用)
 稲貝 優次【都城支署】
 福岡署森林土木指導官
 山部 秀巳【大分署】
 福岡署治山技術官
 東條 衣里子【福岡署】
 福岡署森林官(台河担当区)
 宮下 尚己【長崎署】
 福岡署首席森林官(小石原、秋月
 担当区)
 井川 武史【佐賀署】
 福岡署
 佐藤 真惟子【大隅署】
 福岡署
 山口 強【屋久島署】
 佐賀署事務管理官(管理担当)
 田中 靖政【鹿兒島県環境林務
 部森林経営課】
 佐賀署総括森林整備官
 後藤 毅【宮崎北部署】
 長崎署森林技術指導官
 福山 拓也【技術普及課】
 長崎署総括森林整備官
 秋吉 新一【福岡署】
 長崎署主任森林整備官(経営・土
 木担当)
 岩下 治喜【長崎署】
 長崎署森林整備官(資源活用担当)
 真野 康彦【長崎署】
 長崎署総括治山技術官
 吉田 幸一【治山課】
 長崎署治山技術官(眉山治山事業
 所)

《退職》長い間、ご苦労をありがとうございました

3月31日付定年退職

宮崎 健次（企画調整課（総務課付））

大寺 義宏（森林技術・支援センター）
田代 美喜男（福岡署）

鶴山 道弘（西都児湯署）
吉良 政敏（西都児湯署）
深田 孝治（西都児湯署）
吉川 慶一（宮崎署）

田丸 義次（計画保全部）
藤原 昭博（計画課）

針持 秀一（福岡署）
東 誠也（長崎署）

小城 守（宮崎南部署）
古市 真二郎（北薩署）
久保田 修（鹿児島署）

廣石 功（計画課）
一口 哲美（計画保全部）

川畑 充郎（熊本署）
内村 圭一（熊本署）
甲斐 誠一（熊本署）

積 正治（鹿児島署）
大岩根 浩（大隅署）
宮本 和美（大隅署）

井 孝次（治山課（鳥栖治山事業所））

日田 仁志（大分西部署）
上村 徳光（大分署）

竹永 泰雄（大隅署）
福山 親幸（大隅署）

久保田 利郎（治山課）
片原 三幸（森林整備部）

春日 司（宮崎北部署）

草野 秀雄（森林技術・支援セ

江島 昭則【大隅署】

熊本署森林整備官（資源活用担当）

野田 祐治【西都児湯署】

長崎署首席森林官（福江、川原担当）

今村 誠【長崎署】

熊本南部署森林官（山江担当区）

渡瀬 博美【鹿児島署】

熊本署総括治山技術官

橋本 敏一【北薩署】

長崎署地域技術官（三根森林事務所）

熊本南部署総括事務管理官

熊本南部署地域技術官

迫本 翔太【大分署】

熊本南部署主任事務管理官（総務担当）

熊本南部署

志村 康介【屋久島署】

熊本南部署主任事務管理官（総務担当）

前田 聖人【大隅署】

熊本署森林技術指導官

熊本南部署総括森林整備官

大分署主任森林整備官（経営担当）

下大迫 伸一【熊本署】

熊本南部署主任森林整備官（資源活用担当）

佐藤 昭晴【佐賀署】

熊本署事務管理官（管理担当）

熊本南部署主任森林整備官（資源活用担当）

大分署主任森林整備官（森林ふれあい担当）

一山 祐子【佐賀署】

熊本署総括森林整備官

古閑 義郎【北薩署】

高瀬 智晶【大分西部署】

熊本南部署森林整備官（資源活用担当）

大分署総括治山技術官

熊本署森林整備官（経営・資源活用担当）

熊本南部署森林整備官（資源活用担当）

熊本南部署主任森林整備官（資源活用担当）

松永 直人【北薩署】

熊本南部署森林整備官（土木担当）

大分署地域技術官

後藤 貴裕【熊本署】

熊本南部署森林整備官（土木担当）

大分署主任森林整備官（森林ふれあい担当）

米本 龍正【大隅署】

熊本南部署森林整備官（資源活用担当）

大分署主任森林整備官（経営担当）

栗林 潤一【福岡署】

熊本南部署主任森林整備官（資源活用担当）

中山 俊和【熊本南部署】

大分署主任森林整備官（経営担当）

大分西部署主任森林整備官（資源活用担当）

大分西部署主任森林整備官（資源活用担当）

大分西部署主任森林整備官（森林育成担当）

大分西部署主任森林整備官（森林育成担当）

大分西部署主任森林整備官（森林育成担当）

大分西部署主任森林整備官（森林育成担当）

大分西部署主任森林整備官（森林育成担当）

大分西部署主任森林整備官（森林育成担当）

宮崎北部署森林整備官（森林育成担当）

宮崎北部署森林整備官（森林育成担当）

渡邊 昭伍【長崎署】

都 賢太郎【屋久島署】

大分西部署事務管理官（管理担当）

宮崎北部署総括治山技術官

大分西部署主任事務管理官（総務担当）

佐藤 修治【宮崎署】

大分西部署主任森林整備官（資源活用担当）

宮崎北部署地域統括森林官（高千穂担当区）

大分西部署主任森林整備官（経営担当）

宮崎北部署首席森林官（延岡、北方担当区）

大分西部署主任森林整備官（森林ふれあい担当）

山口 隆志【計画課】

大分西部署主任森林整備官（経営担当）

西都児湯署総括事務管理官

大分西部署主任森林整備官（森林育成担当）

西都児湯署総括事務管理官

大分西部署主任森林整備官（森林育成担当）

西都児湯署主任森林整備官（資源活用担当）

大分西部署主任森林整備官（森林育成担当）

西都児湯署主任森林整備官（資源活用担当）

大分西部署主任森林整備官（森林育成担当）

西都児湯署主任森林整備官（資源活用担当）

大分西部署主任森林整備官（森林育成担当）

西都児湯署主任森林整備官（資源活用担当）

大分西部署主任森林整備官（森林育成担当）

西都児湯署主任森林整備官（資源活用担当）

大分西部署主任森林整備官（森林育成担当）

西都児湯署主任森林整備官（資源活用担当）

大分西部署主任森林整備官（森林育成担当）

西都児湯署主任森林整備官（資源活用担当）

大分西部署主任森林整備官（森林育成担当）

西都児湯署主任森林整備官（資源活用担当）

大分西部署主任森林整備官（森林育成担当）

西都児湯署主任森林整備官（資源活用担当）

大分西部署主任森林整備官（森林育成担当）

西都児湯署主任森林整備官（資源活用担当）

宮川 貴之【宮崎北部署】
宮崎署首席森林官（綾、竹野担当区）
坂本 雄二【西都児湯署】
宮崎署森林官（原担当区）
椎葉 智史【熊本南部署】
宮崎署
山元 義希【長崎署】
都城支署森林技術指導官
平生 陽介【計画課】

都城支署事務管理官（管理担当）
小中原 葵【宮崎署】
都城支署主任森林整備官（資源活用担当）
那須 芳広【宮崎北部署】
都城支署森林整備官（資源活用担当）
三國 稔典【熊本南部署】
都城支署森林官（西岳担当区）
園田 節朗【宮崎南部署】
都城支署

長谷川 京香【計画保全部】
宮崎南部署森林情報管理官
田中 善成【鹿児島署】
宮崎南部署森林官（大東担当区）
久保 和幸【大隅署】
宮崎南部署森林管理署
富田 尚斗【鹿児島署】
北薩署総括事務管理官
木下 栄治【九州地方環境事務所】
北薩署総括森林整備官
丸橋 勝寿【宮崎署】
北薩署主任森林整備官（森林育成担当）
木村 真【熊本南部署】

北薩署森林整備官（資源活用担当）
中村 凌【北薩署】
北薩署総括治山技術官
兒玉 祐二【西都児湯署】
北薩署森林官（阿久根担当区）
川畑 勇二【都城支署】
鹿児島署総括地域林政調整官
小薄 政弘【熊本南部署】
鹿児島署主任事務管理官（総務担当）
柏木 和美【鹿児島署】
鹿児島署事務管理官（管理担当）
守屋 果奈【大分西部署】
鹿児島署事務管理官（経理担当）
下田 悠介【大分署】
鹿児島署総括森林整備官
遠坂 洋志【北薩署】
鹿児島署主任森林整備官（資源活用担当）
古澤 寿光【技術普及課】
鹿児島署主任治山技術官
岩下 晃之【屋久島署】
鹿児島署治山技術官
浦田 紘伸【鹿児島森署】
鹿児島署首席森林官（谷山、知覧担当区）
嶋 徹矢【大分署】
鹿児島署首席森林官（名瀬、宇検担当区）
阿南 達也【屋久島署】
鹿児島署
諫山 雄一郎【屋久島森林生態系保全センター】
鹿児島署
牧島 京右【宮崎署】
大隅署森林技術指導官

外山 三男【北薩署】
大隅署事務管理官（管理担当）
岩崎 正二【西都児湯署】
大隅署主任森林整備官（森林育成・森林ふれあい担当）
小島 洋一【鹿児島署】
大隅署森林整備官（土木担当）
橋本 浩次郎【宮崎北部署】
大隅署総括治山技術官
下池 和彦【北薩署】
大隅署森林官（垂水担当区）
黒谷 幸樹【屋久島署】
大隅署森林官（高山担当区）
平生 竜【大隅署】
大隅署（内之浦森林事務所）
早川 隆羽【林野庁国有林野部業務課】
大隅署首席森林官（財部、大川原担当区）
命苦 健治【西都児湯署】
大隅署地域統括森林官（大根占担当区）

福岡 忠行【長崎署】
大隅署
二子石 文子【森林整備部】
屋久島署森林技術指導官
瀬高 孝男【大分西部署】
屋久島署総括事務管理官
荒木 逸郎【北薩署】
屋久島署主任事務管理官（総務担当）
濱田 巧【福岡署】
屋久島署主任森林整備官（経営・資源活用担当）
高本 宗昭【福岡署】
屋久島署地域技術官（栗生森林事務所）
石綿 深志【都城支署】
屋久島署（宮之浦森林事務所）
梶原 勝【計画保全部】
屋久島署首席森林官（西之表、南種子担当区）
佐伯 卓也【屋久島森林生態系保全センター（保全課）】

横山 修斗【企画調整課】
坂元 美聖（経理課収入係長）
部原 亮介（計画課）
坂元 玲氏（保全課）
津波 佳樹（福岡署）
寺本 宏司（佐賀署）
天海 遥（長崎署）
原田 佳生（熊本南部署）

山本 葉寿心（大分署）
西岡 昌泰（大分西部署）
鎗水 秀虎（宮崎北部署）
林田 胡桃（西都児湯署）
貴島 万萌（宮崎署）
櫻井 樹（北薩署）
西上 和志（鹿児島署）
伊藤 芽依（大隅署）

新規採用者紹介

川口 凌真【熊本署】
屋久島署
本村 颯己【大分署】
沖繩署総括事務管理官
森 浩之【福岡署】
沖繩署事務管理官（経理担当）
本田 師久【熊本南部署】
沖繩署森林整備官（森林ふれあい担当）
奥田 絢子【沖繩署】
沖繩署地域技術官
山口 利明【鹿児島署】
（担当）総務課

菊池溪谷保護管理協議会総会が開催

【熊本森林管理署】
3月10日、菊池市中央公民館研修室において、くまもと自然休養林の「菊池溪谷を美しくする保護管理協議会」の令和4年総会が、菊池市をはじめ阿蘇市、環境省、熊本県、警察・消防、観光関係団体の協議会員及び当署から川畑充郎署長、下大迫伸一総括森林整備官、森永敏朗菊池首席森林官及び濱口絵里奈森林整備官が参加して関係者20名で開催されました。
総会では、本協議会会長の江頭実菊池市長の挨拶の後、川畑充郎署長から「当署としても全面的に



協議会総会の状況



挨拶される川畑署長

【熊本森林管理署】
3月12日、南阿蘇村久木野の分収造林契約地「鮎田の森」において、鮎田地区青少年健全育成連絡協議会・鮎田の森を育てる会、熊本市立鮎田中学校主催による記念植樹が、鮎田の森を育てる会、鮎田中教職員・保護者の有志29名で実施され、当署からも川畑充郎署長が参加しました。

「鮎田の森」の記念植樹に参加

新型コロナ禍の中で菊池溪谷への入り込み者数も減少しています。協議会では令和4年に公式HPの刷新、SNSでの情報発信、ライトアップのプレ事業等を実施して、若年層の取り込みを図ることとしており、当署としても菊池溪谷の更なる活性化に関係機関と連携しながら取り組んでいく考えです。

同会は平成12年に「鮎田の森」を設定し、これまで森林づくりを通じた社会活動や環境教育活動に取り組んできており、昨年5月に国民の森林づくり推進功労者に対する林野庁長官感謝状の贈呈を受けています。

当日は、主催者挨拶に続いて川畑充郎署長が「今後とも国民参加の森林づくりの他の模範となり、鮎田の森が次の時代まで繋がっていくことを期待します」と来賓挨拶しました。その後、本年もコロナ禍で参加できなかった鮎田中2年生が思いを込めて作成した標柱と苗木の引き渡し式を行い、参加者でもみじ7本を植樹しました。

なお今回の活動には、平成12年当時に鮎田の森を設定するためにご尽力された林野庁OBの宮島章さんと佐渡保信さんも参加され、設定時の鮎田の森の役員、先生方と再会を果たされるところにも、年数を重ねて大きく成長した木々に感銘を受けておられました。

国有林は次世代に向けて未来永劫続いていきますが、森林だけでなく地元との絆も次世代に繋げていかなければならない、そして林野庁と言わず組織と人材も次世代へしっかりとバトンタッチしていかなければならないと考えさせられる一日となりました。



苗木と標柱の引き渡し式



作業する参加者



OBも参加（佐渡さんと宮島さん）



参加された皆さん

監物台樹木園の 多様な植物



採集会へ行つたときこの木は何？と聞かれて、トウネズミミチだけどよくわからないと話した。子細に観察してみると果実もあつた。その時、よく知っている方から、まず葉を裏からのぞくと葉脈が見える、さらに果実がやや太いことからトウネズミモチでしようと解説された。なるほどと思った。

その通りで、ネズミモチより葉が大きく、脈が透けて見えることが特



徴であり、また葉の基部近くが一番広くなっていることもが区別点だつた。

樹木園に入つてすぐの西側に大きなトウネズミモチがあり目の高さで観察でき、ネズミモチを知っている人なら、葉がひときわ大きく、質感のある葉でつくられている樹冠に気づかれるでしょう。

観察する場合には、葉の基部もしっかり見ていただくと葉の幅が一番広



173 トウネズミモチ (モクセイ科)

いことに気づかれるでしょう。そのことも大きな特徴です。

果実はほぼ球形（球状楕円形）、長さ約6mm、紫黒色でネズミモチよりやや大きい、果実を梅酒にすると「強壮剤」になると聞きましたを試してはいません。

森林インストラクター

安楽行雄



みどり散歩路
ほかほか陽気をただよわせて、新緑の季節がやってきた。

42年の国有林生活を終える今、直営の生産・造林が主流であった新採当時、右も左も分からないうまま先輩方によく使われ、よく怒られた（指導・助言）記憶が蘇つた。

▼先般、電気工事現場で懐かしい通信機器を眼にした。製品事業所の生産現場（集材機運転手と先山手の連絡手段）で大活躍していた「ハイフォン」だった。

森林電話と同様、ウサギのイタズラなどで不通になると、配線を確認しながら森の中を歩いたことを思い出した。

▼昭和、平成、令和と流れていく中、大型林業機械等の開発、ドローンによる架設作業や苗木運搬や下刈りの実証、成長に優れた苗の開発、シカ等の獣害対策をはじめ森林・林業に係わるあらゆるものが時代と共に変化してきている。

▼今後、新たな技術開発等により、川上から川下まで山に携わる者が、これからも日々であることを願いながら、小生は登山、森林浴などの野外スポーツ等を楽しもうと思つている。（ぎ）